

茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策評価結果

施策名	総合評価			ページ	取組名	取組評価			主な評価理由（教育委員会所管部分）
	R3	R4	R5			R3	R4	R5	
(1) すべての子どもの育ちを支援する	A	A	A	2	①子どもの健やかな育ちを等しく支援※	a	a	a	奨学金(高等学校等入学支度金)制度について、中学3年生の保護者への申請案内の直接配付やCSW等の関係機関への制度の周知依頼等を行うなど施策の方向性に沿って順調に推移したため「a」評価とする。
					②幼児教育と保育の質と量の充実※	a	a	a	茨木っ子プランネクスト5.0の4年目として、最重点の取組である「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象に研修会や園長会等で情報発信を行うことで共通理解と連携強化を図るなどより一層普及することができたことから、施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とする。
(2) 「生きる力」を育む教育を推進する	B	B	B	5	①「確かな学力」の充実	a	a	a	こども主体の授業改善や、興味関心を引き出す課題設定などの工夫を行った結果、全国学力・学習状況調査において、小学校・中学校ともに昨年度に引き続き全国平均よりも高い数値を示したほか、相馬芳枝科学賞については、10回目の記念として全小中学校が参加し、作品応募数、表彰式及び作品展示会への参加者数ともに増加するなど施策の方向性に沿って順調に推移したため「a」評価とする。
					②「豊かな心」の醸成	b	b	b	非認知能力育成については、「キャリアパスポート」や「いま未来手帳」の活用をはじめとする様々な取組を進め、市立小中学校全児童生徒を対象とした「茨木っ子アンケート」の結果では肯定的回答率が微増するなどの効果が現れているなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているが、リアルな体験活動や人間関係づくり等をより一層充実させるため継続的な取組が必要であることから「b」評価とする。
					③「健やかな体」の育成	b	b	b	小学校給食では地元食材の使用やアレルギー対応マニュアルの改訂に、中学校給食では全員給食開始に向けたセンター整備等に取り組んだほか、児童生徒を対象とした調査で「運動スポーツが好き」の肯定率が目標値を超えるなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているが、新体力テスト結果からみえる子どもたちの課題分析等を踏まえつつさらなる取組が必要であることから「b」評価とする。
					④学校支援体制の充実	b	b	b	教職員研修については教育課題や教職員のニーズに応じた研修を実施し、不登校支援については各機関との連携により支援の充実を図ったほか、教職員の時間外勤務時間についても見える化等を進めて減少傾向を示すなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているが、引き続き児童・生徒、保護者、教職員への支援を更に充実させる必要があることから「b」評価とする。
(3) 魅力ある教育環境づくりを推進する	B	B	B	8	①学校施設の計画的な整備・充実	a	b	b	学校施設の整備については、国の補助金等を効果的に活用して、便所改修やエレベーター設置等を実施し安全・安心で快適な学校環境の整備を図るとともに、教職員のICT機器の活用についてもパソコンが活用できる教室等を拡充するなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移したがさらに授業でのICT機器の活用を高めていく必要があることから「b」評価とする。
					②学校・家庭・地域の連携の推進※	b	b	b	放課後子ども教室について、各校区の実態に合わせて実施することで日数を増加させたほか、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と学童通学安全対策協議会による安全点検により見守り活動の充実と通学路の安全確保につなげた。（以上のように順調に推移しているが、学童保育の対象学年拡大における課題への対応を踏まえて「b」評価とする）
(4) 青少年の心豊かなたくましい成長を支援する	B	B	B	10	①青少年健全育成の推進	b	b	b	青少年向け行事について好事例を表彰し横展開を図るとともに、地域ボランティアを中心とした市内コンビニ等への啓発や夏場の祭りでの巡回指導を支援し地域の大人とこどもの顔の見える関係づくりを進めたほか、青少年の犯罪被害抑止や居場所づくりに関する研修を実施するなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているが、地域の青少年育成行事数増加を図る必要があるため「b」評価とする。
					②青少年の体験活動の充実※	b	b	b	民間企業と連携した上中条青少年センター主催事業、野外活動センターでの主催キャンプ、ユースプラザでの社会体験などで、新たな取組を実施することで利用者の増加等につなげたほか、こども会についても主催事業の参加要件の見直しや対象者拡大等の加入促進に取り組むなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているが、こども会加入率低下を抑制する必要があるため「b」評価とする。
(5) 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する	B	B	B	14	①成人の学習の推進	b	b	b	識字・日本語教室事業については各教室の実情を踏まえながら実施するとともに、日本語教育や多文化共生について理解を深め地域における人権意識の醸成を図るために指導者研修を実施して新たな指導者の獲得や活動等へ積極的に参加する人材の発掘に繋げるなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているが、多文化共生事業の一環としてさらに庁内連携に取り組む必要があるため「b」評価とする。
					②公民館活動の推進	b	a	a	公民館講座については、参加人数等の基準緩和や各地域での創意工夫のもとで実施し学びの機会の確保に努めるとともに、館長・主事会議等において現代的課題の解決に向けた民間事業者と連携した講習会の情報提供を行ったほか、こどもを対象とした講習会や地域行事における各館の工夫を紹介することで各公民館間での情報共有を図るなど施策の方向性に沿って順調に推移しており、「a」評価とする。
					③図書館サービスの充実	b	a	a	中条図書館の移転に伴う休館の影響で貸出点数は減少したが、おにクルぶっくぱーくにおいて、開館前の期待感醸成や開館後の複合施設の特性を活かした連携事業などでPRや利用促進に努めたことから開館後は利用者は増加傾向であるほか、12月にはスマートフォンで貸出ができる「スマホde貸出」を開始し利用者の利便性向上を図るなど、施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とする。
(6) 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する	B	B	B	18	①歴史遺産の保存・継承	a	b	b	文化財資料館及びキリシタン遺物史料館ではコロナ禍前の活動を再開し、銅鐸鋳型発見50周年記念テーマ展の見学者が大幅に増加するなど入館者数は順調に回復しており、埋蔵文化財については発掘調査出土遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めるなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているが、令和6年度の文化財資料館開館40周年などさらに取組を推進する必要があるため「b」評価とする。

※市長部局の事業を含む取組

【評価の見方】

総合評価

- A：施策の方向性に沿って順調に進行している。
全ての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がaである。
- B：施策の方向性に沿って概ね順調に進行している。
- ①すべての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がbである。
- ②一部の取組の評価がcであるが、5割以上はaまたはbである。

- C：施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。
A・B・D以外
- D：施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
7割以上の取組の評価がdである。

取組評価

- a：順調に進行している。
- b：概ね順調に進行している。
- c：進行にやや遅れがある。
- d：進行に大幅な遅れがある。

第5次茨木市総合計画
令和5年度施策評価
(茨木市教育大綱部分抜粋)



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

【 まちの将来像2 】

次代の社会を担う子どもたちを育むまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち			
2	施 策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する			
3	対応するSDGs	1貧困をなくそう 2飢餓をゼロに 3すべての人に健康と福祉を 4質の高い教育をみんなに 16平和と公正をすべての人に				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	次世代育成支援行動計画に基づき、すべての子ども・家庭の状況に応じた切れ目のない支援を行うことにより、子どもの健やかな育ちを保障するとともに、安心して子育てできる環境を整えます。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	こども育成部	部長	山 嵯 剛 一	
		施策主担当課	こども育成部	こども政策課	—	
		施策関係課	子育て支援課、保育幼稚園総務課、保育幼稚園事業課、学務課、学校教育推進課			
6	施策内の取組	2-1-1	いばらき版ネウボラの推進			
		2-1-2	子どもの健やかな育ちを等しく支援			
		2-1-3	幼児教育と保育の質と量の充実			

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。			
2	評価理由(R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)			R5年度末現在の施策の主な課題		
	妊娠期から子育て期の支援については、子育て世代包括支援センターとして、妊娠届出のあった妊婦等に対して妊婦の心身状態や家庭状況等を把握し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る入口としての面談を全数実施しています。産前産後の生活に関する情報提供・サービスの調整や、母子保健・子育て支援における包括的な支援の提供や妊婦等との信頼関係の構築等に取り組み、サービスの充実や利用者の満足度の向上に努めるとともに、新たな指標を設定し、集計しました。また、申請手続等については、市民サービス向上のため、銀行に行くことなく手続きが完了できるよう、未熟児養育医療費自己負担金のオンライン決済を開始したほか、業務改善ツールのキントーンを活用し相談記録の共有化を図りました。児童虐待対応について、弁護士から専門的かつ技術的な助言、指導等を受けることで相談支援体制を強化したほか、障害児支援として障害児通所給付等の実施や公立の児童発達支援センター等で療育を提供しました。奨学金(高等学校等入学支度金)制度では、中学3年生の保護者への申請案内の直接配付、CSW等の関係機関への制度の周知依頼等を行いました。待機児童については、幼稚園の認定こども園化等により保育の受入体制の確保に努め、令和5年4月1日時点での待機児童は0を継続しました。「茨木市保育士・保育所支援センター」においては、積極的に保育施設への就職支援を行った結果、112名の保育士等確保につながりました。茨木っ子プランネクスト5.0の4年目として、最重点の取組みである「非認知能力の育成」については、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象に、研修会や園長会等で情報発信を行い、共通理解と連携強化を図り、一層普及することができました。 以上のことから、妊娠期から子育て期の各ライフステージにおける多様なニーズにさらに対応するため、今後も引き続き、支援提供の体制整備に努めていく必要がありますが、全体としては施策の方向性に沿って順調に進行していることから、総合評価は「A」とします。			課題①	妊婦面談を通して顔が見える関係を築き、利用者の目線に立った母子保健と子育ての一体的な支援の提供ができるよう、さらに支援を充実させる取組が必要です。	
				課題②	児童手当及び児童扶養手当の制度改正に伴い、対象者の拡充や支給額の変更等が生じることから、適正な事務執行に努める必要があります。	
				課題③	母子保健業務と児童福祉業務の双方が連携した相談支援をさらに充実させ、児童虐待の早期予防を図る必要があります。	
				課題④	今後もしばらくは増加が見込まれる保育需要に対応するとともに、その後の保育需要も見極める必要があります。	
				課題⑤	保育施設と保育士のマッチングや保育士奨学金返済支援事業補助金の周知・活用等により、保育士確保の目標値を達成しましたが、さらなる人材確保に向けて施策の検討が必要になります。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施 策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	2-1-1	いばらき版ネウボラの推進				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	子育て支援課	課長名	村上 友章
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	妊娠・出産・子育ての切れ目のないサポートの提供や必要な子育て支援サービスが有効に活用されるなど、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	子育て世代包括支援センターとして、妊娠届出のあった妊婦等に対して妊婦の心身状態や家庭状況等を把握し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る入口としての面談を全数実施しています。産前産後の生活に関する情報提供・サービスの調整等、母子保健・子育て支援における包括的な支援の提供や妊婦等との信頼関係の構築に取り組み、サービスの充実や利用者の満足度の向上に努めました。引き続き切れ目のない支援に取り組む必要はあるものの、施策の方向性に沿って順調に推移していることから、「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		妊婦面接の実施率	%	↗	100	100	100% (R6)
		妊娠8か月アンケートにおける面談希望者への面談の実施率	%	↗	-	94.0	95%以上 (R6)

1	取 組	2-1-2	子どもの健やかな育ちを等しく支援					
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名	東井 芳樹	
3	関係課	子育て支援課、発達支援課、保育幼稚園総務課、学務課						
4	目 標 (後期基本計画より)	社会的な支援が必要な子ども・家庭をはじめとする様々な状況にある子どもが健やかに育つための環境が整っています。						
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		a	市民サービス向上のため、銀行に行くことなく手続きが完了できるよう、未熟児養育医療費自己負担金のオンライン決済を開始したほか、業務改善ツールを活用し相談記録の共有化を図りました。児童虐待対応について、弁護士から専門的かつ技術的な助言、指導等を受けることで相談支援体制を強化したほか、障害児支援として障害児通所給付等の実施や公立の児童発達支援センター等で療育を提供しました。奨学金(高等学校等入学支度金)制度では、中学3年生の保護者への申請案内の直接配付、CSW等の関係機関への制度の周知依頼等を行いました。 以上のように、子育て短期支援事業の利用日数の微減及び目標値との乖離等課題はあるものの、施策方向性に沿って順調に進行しており「a」評価とします。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R4年度	R5年度	
		奨学金(高等学校等入学支度金)支給人数		人	→	161	146	-
		相談から支援につながった割合		%	→	100	100	95 (各年度)
		子育て短期支援事業の利用日数		日	↗	58	55	133(R6)

下線部は学識経験者の意見を踏まえ、修正した部分です。

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施 策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する

1	取 組	2-1-3	幼児教育と保育の質と量の充実						
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	保育幼稚園総務課	課長名	中路 洋平		
3	関係課	保育幼稚園事業課、学校教育推進課							
4	目 標 (後期基本計画より)	待機児童が解消されるとともに、保護者のニーズに応じた質の高い幼児教育・保育が総合的に提供されています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		a	待機児童については、幼稚園の認定こども園化等により保育の受入体制の確保に努め、令和5年4月1日時点での待機児童は0を継続しました。「茨木市保育士・保育所支援センター」においては、積極的に保育施設への就職支援を行った結果、112名の保育士等確保につながりました。また、茨木っ子プランネクスト5.0の4年めとして、最重点の取組である「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象に、研修会や園長会等で情報発信を行い、共通理解と連携強化を図り、一層普及することができました。以上のように、施策の方向性に沿って順調に推移していることから「a」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		待機児童者数(各年度4月1日時点)			人	↘	0	0	0 (R5)
		保育現場に送り出した保育士等の数			人	↗	103	112	60 (R5)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部 福田 公教 教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」においての現状認識は、取り組みの成果が上がっていることが指標からも読み取れることから、総合評価「A」は妥当である。 ・取組2-1-1の参考指標「妊婦面接の実施率」は、100%を継続できており、成果を上げていることが読み取れる。子育て支援の初動での関わりが子どもの成長に合わせて、継続していく取り組みが必要となる。 ・取組2-1-2について、参考指標「子育て短期支援事業の利用日数」が前年度を下回った要因の分析が必要である。子育てを家庭に閉じず、社会的に養育していく一つの指標として、本事業の利用日数を検討して頂きたい。 ・取組2-1-3について、「保育現場に送り出した保育士等の数」については、目標値を大きく上回っており、評価できる。一方で、マンパワー不足は、大きな問題となっていることから、質と量を担保するためにもマンパワー対策を加速していく必要がある。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する		
3	対応するSDGs	4 質の高い教育を みんなに			
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	すべての児童・生徒の「生きる力」、すなわち「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」と、その基盤となる「非認知能力」の育成を進め、これからの社会を生き抜く資質・能力を育むことをめざします。また、個人の可能性を最大限引き出すため、学校園をはじめ保育所、関係諸団体が連携して就学前から中学校卒業まで一貫した「きめ細やかで質の高い教育」を保障し、「学びを通した信頼される学校づくり」を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	学校教育部	部長	青木 次郎
		施策主担当課	学校教育部	学校教育推進課	—
		施策関係課	学務課、教職員課、教育センター		
6	施策内の取組	2-3-1	「確かな学力」の充実		
		2-3-2	「豊かな心」の醸成		
		2-3-3	「健やかな体」の育成		
		2-3-4	学校支援体制の充実		

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由 (R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R5年度末現在の施策の主な課題		
	「確かな学力」の充実については、エンパワー層 (全国学力学習状況調査正答率20%以下) 等の子どもたちの現状をもとに、一人ひとりが達成感を感じること、子どもたちの興味関心を引き出すような課題を設定することなど学習者主体の授業となるよう工夫を行いました。その結果、全国学力・学習状況調査において、小学校・中学校ともに昨年度に引き続き全国平均よりも高い数値を示しました。「豊かな心」の醸成については、非認知能力育成を進めるため、「キャリアパスポート」や「いま未来手帳」の活用や、実践モデル校における好事例の普及、校内研修の実施、教職員の児童生徒への日常的な言葉かけなどにより取組を進めました。市立小中学校全児童生徒を対象とした茨木っ子アンケートの結果については、前年度と比べると肯定的回答率が微増となり、自分と向き合い、高める力が育まれ、徐々に自信や自己有用感の面で効果が現れています。「健やかな体」の育成については、小学校給食において、生産者等と協議し地元食材の使用に努め、誤食事故防止の徹底に向けて食物アレルギー対応マニュアルの改訂に取り組みました。中学校給食では、全員給食開始に向けてセンター整備の進捗管理と中学校配膳室の整備を適切かつ計画的に行いました。児童生徒を対象とした調査において「運動スポーツが好き」の肯定率が目標値を超えましたが、新体力テスト体力合計点が目標値に達しなかったことから、その課題を分析し、体力づくりの取組の改善を進める必要があります。不登校支援については、向陽台高等学校をはじめとする各機関と連携を進めることができ、不登校支援の充実につなげました。教育現場の業務改善については、好事例を収集・発信し、各校がそれぞれ業務改善に取り組むことで、教職員の時間外勤務時間は減少傾向にあります。 以上のことから、施策の方向性に沿って概ね順調に推移していると判断していますが、茨木っ子力育成への取組、教職員の資質向上、健康づくり等に向けた取組を一層充実させる必要があることから総合評価は「B」とします。		課題①	日常より子ども理解に努めるとともに、小中学校ともに、体験活動の充実、校内研修支援を活用した茨木っ子力 (非認知能力) の育成にむけた取組のさらなる充実が必要です。	
			課題②	学級集団づくりや人間関係づくり等、すべての児童生徒にとって学校が安心して過ごせる居場所の確保に努める必要があります。	
			課題③	体力向上と合わせて、食育、運動習慣の定着、健康づくりなどの取組を進め、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成を進める必要があります。	
			課題④	フリースクール等の民間団体や教育センターの教育相談等、不登校児童生徒が必ずどこかとつながっているよう対応するとともに、ICT等を活用した学習環境づくりが必要です。	
			課題⑤	教職員の資質向上を図るため、教育課題に応じた研修内容の充実が必要です。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施 策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	2-3-1	「確かな学力」の充実					
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西 学	
3	関係課	教育センター						
4	目 標 (後期基本計画より)	小中学校が連携して学力向上にかかる組織的・計画的な取組を推進しており、児童・生徒は学習習慣を身につけ、知識や技能を活用して学習に取り組み、学ぶ喜びを実感しています。						
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		a	確かな学力の充実については、学習者主体の授業改善を進め、エンパワー層などの子どもたちの現状を理解したうえで、日々の授業で一人ひとりが達成感を感じることができるよう、子どもたちの興味関心を引き出すような課題を設定するなど工夫を行いました。その結果、全国学力・学習状況調査において、小学校・中学校ともに昨年度に引き続き全国平均よりも高い数値を示しました。また、相馬芳枝科学賞については、10回目の記念として全小中学校が参加したことにより、作品応募数、表彰式及び作品展示会への参加者数ともに増加しました。 以上のことから、施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とします。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R4年度	R5年度	
		全国学力・学習状況調査の平均正答率(小学校)		全国を1	↗	1.0	1.0	1以上(R5)
		全国学力・学習状況調査の平均正答率(中学校)		全国を1	↗	1.1	1.0	1以上(R5)

1	取 組	2-3-2	「豊かな心」の醸成					
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西 学	
3	関係課							
4	目 標 (後期基本計画より)	一人ひとりの児童・生徒が基本的な倫理観や規範意識を身につけ、学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを実感し、安心して学ぶことができています。						
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	非認知能力育成については、「キャリアパスポート」や「いま未来手帳」の活用や、実践モデル校における好事例の普及、校内研修の実施、教職員の児童生徒への日常的な言葉かけなどにより取組を進め、市立小中学校全児童生徒を対象とした茨木っ子アンケートの結果は、前年度と比べると肯定的回答率が微増となり、自分と向き合い、高める力が育まれ、徐々に自信や自己有用感の面で効果が現れています。 以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、小中学校におけるリアルな体験活動のさらなる充実、児童生徒理解を深め、人間関係づくり等を一層充実させるなど継続して取り組むことで成果につながると考えていることから「b」評価とします。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R4年度	R5年度	
		自分力(小学校)茨木っ子アンケートより		点	↗	7.9	8.1	8.1(R5)
		自分力(中学校)茨木っ子アンケートより		点	↗	8.0	8.0	8.1(R5)

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施 策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する

1	取 組	2-3-3	「健やかな体」の育成						
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西 学		
3	関係課	学務課							
4	目 標 (後期基本計画より)	小中学校が連携した体力向上の取組や授業改善、新体力テストの活用を進めたことにより、児童・生徒は、健康への意識が高まり、体力向上の意欲や運動に親しむ機会が増えています。給食では安全安心な地元食材の使用量が向上し、的確なアレルギー対応ができています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b	小学校給食では、生産者等と協議し地元食材の使用に努め、誤食事故防止の徹底に向けて食物アレルギー対応マニュアルの改訂に取り組みました。中学校給食では、全員給食開始に向けてセンター整備の進捗管理と中学校配膳室の整備を適切かつ計画的に行いました。児童生徒を対象とした調査において、「運動スポーツが好き」の肯定率が目標値を超え、概ね順調に推移しておりますが、新体力テスト結果からみえる子どもたちの課題を分析し、体力づくりの取組の改善を進めることにより、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成と元気力向上のための食育や健康づくりの成果につなげる必要があることから「b」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		新体力テスト体力合計点(小・中平均)			全国を1	↗	1.0	1.0	1 以上 (R5)
		児童・生徒意識調査(運動スポーツが好き)			肯定率(%)	↗	83.5	96.0	90 (R5)
基本とする食物アレルギー対応範囲の拡充			種類	↗	4	4	4 (R5)		

1	取 組	2-3-4	学校支援体制の充実				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	教育センター	課長名	栗 生 勝弘
3	関係課	教職員課					
4	目 標 (後期基本計画より)	教職員は、最新の技術や情報をもとに授業改善に取り組んでいます。丁寧な相談活動による状況把握と分析の結果、学校と連携した適切な指導・支援が行われ、相談者の学校生活への不安が軽減されています。さらに、教育委員会による支援や学校の業務改善が進むことで、教員の時間外勤務が減少し、児童・生徒に向き合う時間が確保され、日々の教育活動の充実につながります。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	教職員研修については、教育課題や教職員のニーズに応じた研修を実施しました。相談業務については、待機時間をほぼなくすることができました。不登校支援については、向陽台高等学校をはじめとする各機関と連携を進めることができ、不登校支援の充実を図ることができました。また、時間外勤務時間等の見える化や、教育現場の業務改善にかかる好事例を収集・発信し、各校がそれぞれ業務改善に取り組むことで、教職員の時間外勤務時間は減少傾向にあります。				
			以上のことから、施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、児童・生徒、保護者、教職員への支援を更に充実させる必要があることから「b」と評価します。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		教職員1人あたりの研修参加回数	回	↗	2	2	3.0(R6)
		相談員一人あたりの相談件数 (心理・電話・言語・不登校・発達相談)	件／人	↗	90	87	90(R6)
不登校児童・生徒支援室への入級希望者数	人	↗	114	119	80(R6)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部 福田 公教 教授					
2	意見等	・「施策の現状と課題」における現状認識は、指標によっては目標値を上回ったものの、課題がないわけではないことから、総合評価「B」と評価しており、今後の改善に向けたポジティブな評価と考えたい。 ・取組2-3-2「豊かな心」の醸成については、参考指標の数値から一定の効果を上げていることが確認できる。なお、豊かな心、非認知能力育成については、多様な取り組み、取り組み間の関連、教職員との関係性など意外にも学校だけの取り組みを抽出するのが難しいものであるだけに、評価にあるとおり継続した取り組みに合わせて、その評価を行なっていくことが求められる。					

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する		
3	対応するSDGs	4 質の高い教育をみんなに 17 パートナーシップで目標を達成しよう			
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	それぞれの学校において、子どもたちが良好で快適な環境のもとで教育を受けることができる環境を整備します。 また、地域における教育コミュニティづくりが進むとともに、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる環境を整えます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	教育総務部	部長	辻田 新一
		施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	—
		施策関係課	学童保育課、施設課、学校教育推進課、教育センター		
6	施策内の取組	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実		
		2-4-2	学校・家庭・地域の連携の推進		

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由 (R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R5年度末現在の施策の主な課題	
	学校施設の整備につきましては、国の補助金等を効果的に活用し、便所改修を実施したほか、エレベーター設置、外壁・屋上防水改修及び外周塀改修を実施し、安全・安心で快適な学校環境の整備を図ることができました。 教職員のICT機器の活用につきましては、パソコンが活用できる教室等を拡充するなど環境整備を実施しました。また、授業での活用については、担当者会等で交流を行うことで好事例の情報共有を行いました。 放課後子ども教室については、コロナによる制限がなくなり、各校区の実態に沿って実施することで、実施日数の増加に繋がりました。 家庭教育関係事業については、各主体の積極的な取組の結果、参加者数が微増しました。 見守り活動や通学路の安全点検については、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と学童通学安全対策協議会による安全点検を実施しました。 学童保育については入室希望者が増加しましたが、場所の確保に努めた結果、一斉受付では待機児童は発生しませんでした。 以上のように順調に推移していますが、授業でのICT機器の活用をさらに高めていく必要があること、また、学童保育の対象学年の拡大については3年生までの保育需要の増加と場所確保等の状況を見据えて開始時期を検討する必要があることから「B」評価とします。		課題①	学校施設の整備ではウクライナ情勢や大阪万博等の影響による作業員、資材不足、物価高騰等への対応が課題となっています。
			課題②	教員へのICT機器を活用した授業づくりの支援や授業力向上の取組、機器を安定的に活用できる体制等を工夫・改善する必要があります。
			課題③	放課後子ども教室については、コロナ禍やスタッフの高齢化の影響により、スタッフ不足という課題があり、代表者連絡会等で情報交換を図りながら、新たな人材確保の手法を検討をしていく必要があります。
			課題④	家庭教育関連事業については、家庭教育学級や親学びサポーターのなり手不足などから、将来に向けて新たな実施手法の検討が必要です。
			課題⑤	学童保育については、教室借用や施設設置が困難な学校もある中で、保育需要の増加や対象学年の拡大に対応するために、民間事業者による施設設置促進も含めた場所と人材確保の対策が必要です。

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施 策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	施設課	課長名	山内 得世
3	関係課	教育センター					
4	目 標 (後期基本計画より)	学校施設・設備等が、計画的に更新されることにより、利便性や機能性を持つ、快適な教育環境で効果的な児童・生徒の学習が行われています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	学校施設の整備につきましては、国の補助金等を効果的に活用し、便所改修を実施したほか、エレベーター設置、外壁・屋上防水改修及び外周塀改修を実施し、安全・安心で快適な学校環境の整備を図ることができました。 教職員のICT機器の活用につきましては、パソコンが活用できる教室等を拡充するなど環境整備を実施しました。また、授業での活用については、担当者会等で交流を行うことで好事例の情報共有を行いました。 以上のように施策の方向性に沿って、概ね順調に推移していますが、さらに授業でのICT機器の活用を高めていく必要があることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		2系統目の便所改修工事の完了の率	%	↗	55.0	70.0	100(R7)
		授業でICT機器を活用する教員の率	%	↗	82.0	84.0	86(R6)

1	取 組	2-4-2	学校・家庭・地域の連携の推進						
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司		
3	関係課	学童保育課、学校教育推進課							
4	目 標 (後期基本計画より)	学校・家庭・地域が互いに情報共有し、それらが連携して教育コミュニティづくりを進めています。また、子どもたちの安全で安心な居場所づくりや地域での見守り体制が整っています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b	放課後子ども教室については、各校区の実態に沿って実施することで、実施日数の増加に繋がりました。家庭教育関係事業については、各主体の積極的な取組で、参加者数が微増しました。見守り活動や通学路の安全点検については、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と学童通学安全対策協議会による安全点検を実施しました。学童保育については場所の確保に努め、一斉受付では待機児童は発生しませんでした。以上のように順調に推移していますが、学童保育の対象学年拡大については3年生までの保育需要の増加と場所確保等の状況を見据えて開始時期を検討する必要があることから「b」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		放課後子ども教室延べ実施日数			日	↗	1,167	2,066	1,400(R5)
		家庭教育関連事業の参加者数			人	↗	1,506	1,523	1,300(R5)
学童保育待機児童数(一斉受付申請分)			人	→	0	0	0(R5)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部 福田 公教 教授					
2	意見等	・「施策の現状と課題」においての現状認識は、おおむね順調に進行しているものの、学童保育の対象拡大やそれに伴う、場所と人材確保を考慮すると総合評価「B」は、妥当であろう。 ・取組2-4-1は、ハード面の進行に合わせて、その活用方法についても情報共有を行なうなど、有効活用も検討されていることは評価できる。 ・取組2-4-2については、対象学年の拡大に対応した方策を早急に検討し、実施していく必要がある。					

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち			
2	施 策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する			
3	対応するSDGs	1 貧困をなくそう 4 質の高い教育をみんなに 17 パートナーシップで目標を達成しよう				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	全ての青少年が様々な地域活動や体験活動に参加するとともに、適切な支援を受けることにより、心豊かにたくましく成長することができるよう取組を進めます。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	教育総務部	部長	辻田 新一	
		施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	—	
		施策関係課	こども政策課			
6	施策内の取組	2-5-1	青少年健全育成の推進			
		2-5-2	青少年の体験活動の充実			
		2-5-3	若者の自立支援			

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R5年度末現在の施策の主な課題		
	青少年健全育成の推進については、青少年向け行事の好事例を表彰し優良事例の横展開を図りました。有害環境からこどもを守る観点で、地域ボランティアを中心とした活動の支援を行うことで、地域の大人とこどもの顔の見える関係づくりを進めました。また、高校生等が小学生向け体験活動を企画するイベントで異年齢交流や自己有用感向上を図り、さらに、青少年の育成者を対象に、青少年の犯罪被害抑止や居場所づくりに関する研修を実施しました。青少年の体験活動の充実については、上中条青少年センター主催事業において、こども達に興味を持ってもらうため、新たに民間企業と連携して実施したことで、参加人数が増加しました。野外活動センターでは、新たな主催キャンプを実施したことで利用者が増加しました。こども会では、主催事業の参加要件の見直しや、加入促進を図るため、事業の対象者を拡大しチラシ等で周知したことにより、昨年よりも参加者数は伸びました。ユースプラザでは、新たな社会体験に関する取組の一つとして、「生きづらさキャンプ」を実施し、「生きていく力」を育む体験として活用できました。若者の自立支援については、こども政策課にヤングケアラーコーディネーターを配置し、学校や地域の支援者から相談を受け必要に応じて支援を提供したほか、支援者を対象とした事例検討会で連携の必要性を共有しました。一方、中学校や高等学校で、ヤングケアラーに関する講義を行い、当事者がケアの負担に気づくことができるよう啓発を行いました。また、子ども・若者支援地域協議会では、新たに私立高等学校が構成機関として加わったことで、中途退学に懸念がある生徒への支援が可能となりました。 以上のように概ね順調に推移していますが、地域の青少年育成行事数増加を図る必要があること、また、こども会活動への支援と加入促進を引き継ぎ実施し、加入率低下を抑制する必要があることから「B」評価とします。		課題①	地域の青少年育成行事が縮小しており、こどもの異年齢交流や自己有用感を感じる機会の提供が必要です。	
			課題②	体験活動は、こどもたちの成長の過程において大変重要な意義があることから、引き続きその充実に努める必要があります。	
			課題③	市こども会育成連絡協議会と連携し、引き続き、こども会活動の継続と加入促進につながる支援策を講じる必要があります。	
			課題④	居場所での社会体験の一環として、片付けや手洗い、うがい等の健康管理の習慣づけや日用品の使い方に関する助言など、生活習慣の形成に努め、「生きていく力」を育む必要があります。	
			課題⑤	若者の自立支援を進めるため、ヤングケアラーに特化した支援サービスを検討する必要があります。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施 策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	2-5-1	青少年健全育成の推進						
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司		
3	関係課								
4	目 標 (後期基本計画より)	各地域で青少年を対象にした行事等が活発に実施され、地域の方との関わりが増えることにより、地域の子どもを地域で見守り、育てるという市民意識が醸成されています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b	補助金交付団体数が増加したほか、青少年向け行事の好事例を表彰し優良事例の横展開を図りました。有害環境から子どもを守る観点で、地域ボランティアを中心に、市内コンビニ等への啓発や、夏場の祭りでの巡回指導を実施し、その活動の支援を行うことで、地域の大人とこどもの顔の見える関係づくりを進めました。また、高校生等が小学生向け体験活動を企画するイベントで異年齢交流や自己有用感向上を図り、さらに、青少年の育成者を対象に、青少年の犯罪被害抑止や居場所づくりに関する研修を実施しました。以上のように事業を推進しましたが、地域の青少年育成行事数増加を図る必要があるため「b」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		茨木市青少年健全育成事業補助金交付団体数			団体	↗	55	64	80(R5)
		青少年が行事の一部を担当した割合			%	→	77.0	73.0	75(R5)

1	取 組	2-5-2	青少年の体験活動の充実						
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司		
3	関係課	こども政策課							
4	目 標 (後期基本計画より)	青少年の活動拠点である上中条青少年センターや青少年野外活動センターのほか、ユースプラザなどでの体験活動を通して自尊感情や生きる力を高め、自分の将来に対して夢や希望を持つことができるような集団活動が活発に展開しています。							
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b	上中条青少年センター主催事業では、子ども達に興味を持ってもらうため、新たに民間企業と連携して実施したことで、参加人数が増加しました。野外活動センターでは、新たな主催キャンプを実施したことで利用者が増加しました。ユースプラザでは、新たな社会体験に関する取組の一つとして、「生きづらさキャンプ」を実施し、「生きていく力」を育む体験として活用できました。こども会では、主催事業の参加要件の見直しや、加入促進を図るため、事業の対象者を拡大しチラシ等で周知したことにより、昨年よりも参加者数は伸びました。以上のように順調に推移していますが、こども会活動への支援と加入促進を引き継ぎ実施し、加入率低下を抑制する必要があるため、「b」評価とします。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R4年度	R5年度	
		上中条青少年センター主催事業参加者数			人	↗	871	1,124	1,000(R5)
		こども会加入率			%	→	22.4	18.6	22(R5)
青少年野外活動センター年間利用人数			人	↗	6,816	7,816	8,000(R5)		

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施 策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する

1	取 組	2-5-3	若者の自立支援				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名	東井芳樹
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	支援が必要な時にどこに相談すればよいか、様々な支援者・事業者・市民が知っています。それぞれの状況に応じた支援を受け、自立に向けてステップアップしています。相談者・支援者ともに負担の少ない機関連携が行われ、若者の自立に向けた切れ目のない支援が実現しています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	ヤングケアラー実態調査の結果、こども政策課にヤングケアラーコーディネーターを配置し、学校や地域の支援者から相談を受け必要に応じて支援を提供したほか、支援者を対象に事例検討会を開催し、連携の必要性を共有しました。一方、中学校や高等学校で、ヤングケアラーに関する講義を行い、当事者がケアの負担に気づくことができるよう啓発を行いました。また、子ども・若者支援地域協議会では、新たに私立高等学校が構成機関として加わったことで、中途退学に懸念がある生徒への支援が可能となりました。以上のことから、施策の方向性に沿って順調に推移しているため「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値	
						R4年度	R5年度
		目標値(年度)					
		スモールステップの段階(自立度)アップ率《改善率》		%	↗	98.0	98.2

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部 福田 公教 教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」においての現状認識は、おおむね順調に進行しているものの、現下の社会情勢を勘案すると、取り組みを前向きに進めにくいにも関わらず、様々な前向きな取り組みが行なわれており、総合評価「B」は、妥当であろう。 ・取組2-5-2については、上中条青少年センター主催事業参加者数の増加や青少年野外活動センター年間利用者数の増加などの取り組みは評価できる。課題となるのは、こども会の加入率となろう、青少年の体験活動の充実に資すると思われるものの、加入率が低下しており、そのあり方を検討必要がある。

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する			
3	対応するSDGs	4 質の高い教育をみんなに 				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関、企業等との連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人の学習や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	市民文化部	部長	中井 誠	
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—	
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館			
6	施策内の取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備			
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進			
		3-1-3	成人の学習の推進			
		3-1-4	公民館活動の推進			
		3-1-5	図書館サービスの充実			

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。			
2	評価理由(R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R5年度末現在の施策の主な課題			
			課題①	「茨木市生涯学習推進計画」の方向性に基づき、市民ニーズに沿った生涯学習を推進し、また、インターネット等を利用したより効果的な学びに繋げるため、学習環境の更なる充実が必要です。		
			課題②	生涯学習情報誌発行に係る情報収集の充実に努め、更なる生涯学習情報を発信し、市民がいつでも学習の機会を選択できる環境を整える必要があります。		
			課題③	識字・日本語教室事業については、多文化共生事業との連携を進めていく必要があります。		
			課題④	現代的課題・地域課題の解決に向けた取組の充実に向けて、民間事業者等のノウハウを生かした講座の開催等についてさらなる情報提供を図る必要があります。		
			課題⑤	障害の有無等に関わらず、誰もが読書に親しめる環境の整備と充実を図るため、読書バリアフリーコーナーの設置などに取り組む必要があります。		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子	
3	関係課							
4	目 標 (後期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。						
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	きらめき講座については、約3か月の空調改修工事の影響で半期の開催となる中、通年講座回数の見直し等により学習機会の確保に努めました。また、企業等との新規連携講座として、メイク、掃除、健康等の講座やプラネタリウムを活用した惑星科学の講座を開催し多様な学習機会を提供したほか、リスキリングに係る事業として、語学やICT関連、社会人のスキル講座等を通じて学び直しの機会を提供しました。また、ユニバーサルアクセスの実現に向けて、レベル別ICT関連講座を実施し、デジタルデバйд解消に努めました。 以上のことから概ね順調に推移していますが、新たな講座やイベント等を企画し、生涯学習の機会をさらに提供する必要があるため「b」評価とします。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値 (年度)
						R4年度	R5年度	
		きらめき講座受講者数		人	↗	25, 386	15, 903	27, 000 (R5)
		講座の動画配信数		本	↗	11	4	6 (R5)
		天文観覧室(プラネタリウム)利用者数		人	↗	9, 881	17, 262	10, 000 (R5)

1	取 組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	生涯学習情報の発信については、Next Stageの情報掲載数は目標値を上回り、市主催及び各種団体の講座やイベントについて各種公共施設での設置や市ホームページでの掲載により充実した情報提供を行いました。また、学習機会の選択肢の増加を図るため、連携大学等の各種講座情報について市ホームページ内に各種団体のホームページリンクを設定したほか、リスキリングに係る講座情報についてNextStage等での掲載を充実させました。 以上のことから、概ね順調に推移していますが、より多くの生涯学習情報提供に向けて引き続き取組を重ねる必要があるため「b」評価とします。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		Next Stage情報掲載数	件	↗	587	582	410(R5)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取 組	3-1-3	成人の学習の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	識字・日本語教室事業については、各教室の実情を踏まえながら実施することができました。また、日本語教育や多文化共生について理解を深め、地域における人権意識の醸成を図るため指導者研修を実施し、新たな指導者の獲得や、活動等へ積極的に参加する人材の発掘に繋げることができました。 以上のことから、順調に事業を進行できましたが、多文化共生事業の一環として、庁内連携し取り組んでいく必要があるため、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		社会教育関連講習講座の参加者数	人	→	973	1, 293	1, 100 (R5)

1	取 組	3-1-4	公民館活動の推進					
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司	
3	関係課							
4	目 標 (後期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。						
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		a	公民館講座については、アフターコロナにおいても地域活動への影響が続いていることから、引き続き参加人数や開催回数の基準緩和や各地域での創意工夫を行うことで、学びの機会の確保に努めました。また館長・主事会議等において、現代的課題の解決に向けた民間事業者と連携した講習会の情報提供を行ったほか、こどもを対象とした講習会や地域行事における各館の工夫を紹介することにより、各公民館間での情報共有を図ることができました。 様々な工夫のもと住民の主体的な学習活動を支援し、現代的課題等の解決に向けた取組も推進できたことから「a」評価とします。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R4年度	R5年度	
		小学校区公民館講座 受講者数		人	↗	1, 982	1, 911	1, 900 (R5)
		小学校区公民館講座等		講座等	↗	347	346	350 (R5)
		講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取組によるもの		講座等	↗	39	55	40 (R5)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取 組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、読書活動の推進が図られ、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	中条図書館移転に伴い約3か月休館したため、貸出点数は減少しましたが、おにクルぶっくぱーく開館後は新規利用者も増え、利用は増加傾向にあります。開館前には開館に向けて期待感を醸成する連携事業を、開館後は複合施設の特性を活かした連携事業や運営を行うなど、新施設のPRや利用促進に努めました。 12月には、スマートフォンで貸出ができる「スマホde貸出」を開始し、利用者の利便性の向上を図りました。 <u>実登録人数が増え</u>、子ども読書活動推進の取組も継続して行い、おおむね順調に進んでいることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		資料貸出点数	点	↗	3, 570, 988	3, 476, 804	3, 500, 000 (R6)
		蔵書冊数	冊	→	1, 266, 627	1, 268, 932	1, 250, 000 (R6)

下線部は学識経験者の意見を踏まえ、修正した部分です。

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授
2	意見等	・施策全体の進捗状況が良好で、事業成果についても一定の効果をあげており、課題に関わる認識も明確であることから、総合評価「B」が妥当であると考える。 ・「成人の学習の推進」における識字・日本語教室事業などの社会教育関連講座の参加者数の増加など、目標値を超える内容であり、示されているような課題はあるが「a」評価でも良かったのではないかと。課題として、社会教育振興課と文化振興課の両担当課の連携・協力によって多文化共生事業のさらなる振興を期待する。 ・「公民館活動の推進」について、「a」評価の根拠となっている学習活動支援と現代的課題の解決に向けた取組の内容が判然としない。コミュニティ形成と市民の実生活に即する文化的教養の習得といった学習機会が提供されているかの検証が必要である。民間事業者との連携という外的要因については評価する。 ・「図書館サービスの充実」について、おにクルぶっくぱーくにおける新規利用者数増や「スマホde貸出」などのサービス向上があるが、一方では資料貸出点数は減少している点で評価が「a」というのは少し疑問に思う。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			
3	対応するSDGs	4質の高い教育をみんなに 11住み続けられるまちづくりを				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	市民文化部	部長	中井 誠	
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—	
		施策関係課	共創推進課、歴史文化財課、中央図書館			
6	施策内の取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり			
		3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり			
		3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成			
		3-3-4	歴史遺産の保存・継承			
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成			

2 令和5年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。			
2	評価理由(R5年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R5年度末現在の施策の主な課題			
	おにクルの開館について、プレ事業として、子育て×図書館など機能間連携を図った事業を中心に実施しました。また、開館記念イベントについては、おにクルの開館までに関わった市民を中心に、市民自身がイベントを企画、実施しました。おにクルの開館に関連した事業として、多様な分野や主体と連携した事業を展開したほか、市内文化芸術団体や大学等と連携し事業を実施しました。開館後も、大学と連携したプロジェクトの実施をすることで、文化芸術活動の新たな拠点として活用しています。また、障害の有無にかかわらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ美術教室「maru」を実施したほか、こどもを対象とした文化芸術のワークショップを他の文化事業やおにクル開館関連事業と連携して展開、また川端康成文学館で中高生を対象とした文学講座を開催するなど、こどもたちが多様な文化芸術に触れる機会の拡充に取り組みました。川端康成文学館では、姉妹都市等の周年事業と連携した展示や、夏休みなどにこども向けのワークショップを実施するなど、これまでと違ったターゲットに向けた企画を実施しました。富士正晴記念館については、企画展・講演会・子ども向けイベント及び移動図書館ともしび号でのクイズ等で、広く富士正晴と記念館の周知を行いました。文化財資料館及びキリシタン遺物史料館では、コロナ禍前の活動を再開させたことで入館者数は順調に回復し、銅鐸鋳型発見50周年記念テーマ展の見学者数は昨年度より大幅に増加しました。郷土史料室では地域の史料の収集・整理・保存のほか普及啓発にも取り組んでいます。埋蔵文化財については、発掘調査出土遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めています。 以上から、全体としては施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断しますが、引き続き、多様な主体との交流や連携、「maru」の事業検討、文化財の保護の取組への理解の促進や魅力に触れる機会の提供、文学に関する訴求力のある取組等が必要であるため、総合評価は「B」とします。		課題①	文化芸術を通じた多様な主体の交流・連携を促進することに加え、市民と文化芸術をつなぐ人材を育成する必要があります。		
			課題②	おにクルのグランドオープンシリーズ公演や開館1周年記念文化振興イベントの実施にあたっては、これまでの取組を踏まえ、市民にも参画いただける手法について検討を行う必要があります。		
			課題③	「maru」については、持続的な実施に向けて事業の実施体制を検討する必要があります。		
			課題④	幅広い世代の市民に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけるとともに、多くの市民に本市の文化財の魅力に触れていただく機会を提供する必要があります。		
			課題⑤	文学館について、過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方などへ訴求力のある取組が必要です。		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる多様な主体の協働や、文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	おにクルの開館に関連した事業として、多様な分野や主体と連携した事業を展開したほか、市内文化芸術団体や大学等と連携し事業を実施しました。文化芸術団体等の活動や公演への補助である文化振興補助制度を活用し、文化芸術団体や芸術家には活動と交流の場を、市民には鑑賞の場を提供することができました。 以上のことから、 <u>施策の方向性に沿って順調に進んでおり、「a」評価とします。</u>				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		市が他の主体と協働・連携して実施する事業数	件	↗	17	18	18 (R6)
		「次なるわたしへ」文化振興補助制度申請件数	件	↗	19	15	—

下線部は学識経験者の意見を踏まえ、修正した部分です。

1	取 組	3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課	中央図書館、共創推進課					
4	目 標 (後期基本計画より)	様々な場所で文化と身近にふれることのできる環境を整備し、障害の有無にかかわらず、市民が文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会が充実しています。 また、高齢者や子育て世代、若者、障害者、外国人など、それぞれの文化芸術ニーズに応える事業を行うことにより、市民誰もが、気軽に文化芸術とふれる・感じる・つながる環境が整っています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	おにクルの開館について、プレ事業として、子育て×図書館など機能間連携を図った事業を中心に実施しました。また、開館記念イベントについては、おにクルの開館までに関わった市民を中心に、市民自身がイベントの内容や広報の方法、館内のツアーなどを企画、実施しました。開館後も、大学と連携した「おにクル×シブプス・キャットプロジェクト」等の実施することで、文化芸術活動の新たな拠点として活用しています。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	富士正晴記念館については、企画展・講演会・子ども向けイベント及び移動図書館ともしび号でのクイズ等で、広く富士正晴と記念館の周知を行いました。 以上のことから施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とします。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	↗	18, 163	17, 598	16, 000 (R6)
		文化振興イベント参加者数	人	↗	12, 925	28, 236	24, 000 (R6)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取 組	3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	障害の有無にかかわらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ美術教室「maru」を実施したほか、こどもを対象とした文化芸術のワークショップを他の文化事業やおにクル開館関連事業と連携して展開、また川端康成文学館で中高生を対象とした文学講座を開催するなど、こどもたちが多様な文化芸術に触れる機会の拡充に取り組みました。 以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているため「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		こども対象の芸術文化講座 参加者数	人	↗	143	151	150(R6)
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	1,765	2,291	1,600(R6)

1	取 組	3-3-4	歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	前田 聡志
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	文化財資料館及びキリシタン遺物史料館では、コロナ禍前の活動を再開させたことで入館者数は順調に回復し、銅鐸鋳型発見50周年記念テーマ展の見学者数は昨年度より大幅に増加しました。これは関連イベントや図録が好評であったこと等が要因に挙げられます。郷土史料室では地域の史料の収集・整理・保存のほか普及啓発にも取り組んでいます。埋蔵文化財については、発掘調査出土遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めています。 以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に進んでいますが、令和6年度は文化財資料館開館40周年を迎えることから、より一層取組を推進する必要があるため「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	1, 886	2, 872	2, 500 (R5)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取 組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にする気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。					
5	R5年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (R5年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	川端康成文学館において、姉妹都市等の周年事業と連携した展示や、夏休みなどにこども向けのワークショップを実施するなど、これまでと違ったターゲットに向けた企画を実施しましたが、ウォーキングイベントとコラボした昨年度に比べて来館者数は大幅に減少しました。 以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、文学に関心が高くない方への訴求力のある取組がさらに求められるため、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R4年度	R5年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	9,334	6,093	9,000 (R6)
		川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	627	622	1,000 (R6)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	国立民族学博物館 出口 正之 名誉教授
2	意見等	- 令和5年度については「おにクル」の完成・開館という茨木市政上、画期的な年度となった。この点を全体として低く評価しすぎている。総合評価は「A」が相応しい。 - 取組3-3-1では、おにクルの完成に合わせた多忙な時期に、市内文化芸術団体や大学等と連携し事業を実施した点は高く評価でき「a」の方が適切ではないかと考える。 - 取組3-3-2では、プレ事業として、子育て×図書館等を行い、「静かで音を立ててはいけない図書館」という従来の常識を打ち破る「おにクル」の構造的特徴を先取りしており、「a」評価は適切である。 - 取組3-3-3ではいわゆる「社会的包摂」のプログラムに積極的に取り組み、SDGsへの貢献も大きく、「a」評価は適切である。 - 取組3-3-4では、極めて重要な文化財に対する長期間のコロナ禍の難しい施策を乗り越えており、「b」評価は妥当である。 - 取組3-3-5において、言語表現である文学は、文化のもっとも基礎となる大事な要素である。「郷土への愛着心とブランド形成」は単に入館者数だけで測れるものではなく、継続していく力こそ重要であり、「b」評価は適切である。